

地域資源保全におけるツーリズムの役割に関する研究

—ベトナム中部農村を事例として—

井村 美保

キーワード：ベトナム中部，少数民族，地域資源，ツーリズム

1. 研究の背景と目的

近年、環境問題の解決や地域の活性化および発展を図るという観点から、世界的に地域資源の価値を見直す動きが生じており、その一つとして地域資源を活用したツーリズムが盛んになっている。1985年以降、ドイモイ政策の実施により経済成長を推し進めたベトナム社会主義共和国（以下、ベトナム）政府も、近年、観光資源の保護にも力を入れており、山岳地帯などに残る豊富な自然資源や生態系、少数民族の居住区も保護の対象となっている。しかしながら、山間部や農村地域に居住する少数民族の生活環境と周辺の自然環境は、都市部の経済発展や各種政策の影響を受けて緩やかに変容し、時として劣化している。ツーリズムが地域に与える影響を客観的に評価する必要があるが、地域ごとに生活環境および自然環境が異なることから、未だ事例研究を重ねている段階であり、ツーリズムが地域に与える影響の一般性、共通性を見いだすためにも更なる研究が求められている。

本研究は、ツーリズムが実施されている少数民族が居住する一つの集落において、①ツーリズムの実態と過去からの変遷、②地域資源保全のためにツーリズムが果たす役割、③地域資源の持続可能な活用のための課題、を明らかにすることを目的とする。

2. 研究対象地と研究の方法

研究対象地は、中部山岳地帯に位置し、ベトナム国定少数民族の一つであるカトゥ族が居住するトゥアティエン・フエ省ナムドン県トゥンロー村ドイ集落とした。主要な生業はアカシア、ゴムを中心とした林業と稲作等の農業であるが、2000年代初めに外部機関の支援を受けて、カトゥ族の伝統文化やカジャン滝など周辺の自然環境を利用したツーリズムも開始された。本研究では2014年9月から10月の期間に、集落全世帯（157世帯）を対象として、基本情報とツーリズムに関する質問項目を設定した半構造化インタビュー調査と参与観察を行なった。

3. 結果と考察

ドイ集落のツーリズムには、約7割の世帯が従事者あるいは観衆として参加していること、地域資源の一つである「伝統技能」の保全にツーリズムが貢献していることが明らかになった。一方で、ツーリズム開始時と比較して、外部機関の支援減少、カジャン滝の汚染、伝統民族織物の生産・販売停止など、課題も抽出された。ツーリズムの運営自体が外部機関の支援に大きく依存しており、一旦支援が無くなると地域資源が短期間で失われる構造が問題であることが示唆された。これらの課題を踏まえ、今後、外部支援に依存している体制を改善し、ツーリズムによって持続的に地域資源保全ができる住民主体の仕組み作りが必要であると考えられる。